

70年前の遺愛生のボランティア

5月中旬に、遺愛同窓生（K5回）84歳の菊地愛子さんが校長室を訪ねてこられ、遺愛時代のことをいろいろ教えて下さいました。菊地さんは昭和22年（1947年）に遺愛中学校に入学しました。遺愛入試の時には定員100名のところ500名以上の志願者がおり、入試倍率5倍以上でした。戦後間もない頃で、本当にモノ不足でしたが、そんな時代でも遺愛生は奉仕活動（ボランティア）を一生懸命していたそうです。菊地さんは友人たちと3年以上にわたる奉仕活動を行い、遺愛高校を卒業する時に北海道知事から表彰されたそうです。そのことが新聞に大きく掲載され、その記事を当日持参してくれました。

そこには…

「うるわしき乙女の真情」 まる3年孤児を慰む 遺愛女高卒十少女を知事表彰

…と見だしがあり、菊地さんをはじめ10人の遺愛の生徒たちが函館厚生院育児院（保護者のいない幼児たちを収容していた施設）に3年以上も毎週土曜日に慰問し続け、幼児たちの保育や衣服修繕、洗濯などをしてきたことに対して北海道知事が表彰したことが書かれていました。

奉仕のきっかけは、彼女たちが遺愛中学の3年生の時でした。社会科の先生とともに社会科見学として函館厚生院育児院を訪ねた時に、子どもたちの様子を見て、自分たちのできる範囲で関わり奉仕することができたらと考え、サンビーム・サークル（名づけ親は、英語教師で宣教師のバーンズ教諭でした。）を結成し、定期的に訪問し奉仕したとのことでした。

2018年6月5日



菊地愛子さん



当時の新聞記事



奉仕仲間